開放的施設における処遇及び保安警備等に関する検討結果報告(概要)



検討委員会での検討経緯

4月8日,松山刑務所大井造船作業場で発生した逃走事件を受け,翌9日,上川法務大臣の指示 に基づき法務省内に「松山刑務所大井造船作業場からの逃走事故を契機とした開放的施設における 保安警備・処遇検討委員会」を設置

関係者からの事情聴取、保安警備システムに関する関係企業との協議・実地検証等の調査を実施 した上で,構成員による検討を重ねるなどし,今般,検討結果報告をとりまとめ

問題点

受刑者

心情の把握等

選定に当たっての判断材料となる情報の 範囲や専門的な見地からの審査に不十 分な点があった

遵守事項に違反した場合の松山刑務所 への送還について,手続等の規定が不備 逃走受刑者への組織的な心理的フォロー の未実施

職員面接について,受刑者ごとの担当制 ではないため、心情把握が不十分 受刑者への指導内容等について,組織的 な情報共有体制の構築が不十分 週末等も含め寮に宿泊させており,受刑 者同士の人間関係等に伴う心理的負担

受刑者間に上下関係の意識を生じさせ 得るものであった

必ずしも職員による適切な関与の下で 運営されていなかった

受刑者の逃走を未然に防止するとともに 逃走を企図した際には直ちに把握できる 監視体制の不備

受刑者が逃走を企図した場合,早期に 把握できる体制の不備

逃走発覚時,一部の近隣自治体への通報

地域住民の要望を受け付ける窓口の 未設置

日頃からの広報活動が不十分

対応策

刑事施設収容前の行動についても幅広く情報 収集を実施

大井造船作業場への就業前に心理技官による 面接を実施

遵守事項に違反した場合,直ちに松山刑務所 に送還することを原則とし、例外となる場合の 手続等の規定を整備

心理技官による受刑者への面接の実施及び 専門的な見地からの職員に対する助言指導 の実施

受刑者ごとの担当を定め、職員面接を実施 組織的な情報共有体制の構築,研究会を実 施し,受刑者への助言指導内容等について 情報を共有

週末等は,松山刑務所に受刑者を収容

新たに受刑者による係活動を実施 職員が積極的に関与して指導助言を実施

寮の窓に人が通り抜けられない幅しか開かない 措置を講じた上で、防犯フィルムを貼付 警備システム(受刑者の出入口に電子錠及び 入退室管理システム,寮外壁に赤外線センサー 寮周辺にセンサー付カメラ)を導入

刑務官の配置を見直し,適切な監視体制を構築

近隣自治体や関係機関への通報は,松山刑務 所で一元的に実施

地域住民の要望等を受け付ける窓口を設置 報道機関に対する施設公開や懇談会の機会の

近隣自治体と定期的に協議会を開催し,意見交 換等を実施

寮の物的警備

自治会制

度

地域 への対応等

その他の検討事項(GPS等の活用)

開放的施設における処遇の意義は,受刑者に対する強い信頼を前提として,収容対象受刑者の特性を踏まえつつ,一般社会の生活にできるだけ近付けた処遇を行うことで社会への適応能力を育成する点にある

< GPS等を活用した措置を実施した場合>

受刑者に対する強い信頼という前提が失われる懸念がある

自発性及び自律性の制約の程度が大きくなる

より拘束度の高い装着方法を講じる必要があり、大井造船作業場における開放的処遇の意義と相容れない

大井造船作業場では,各種工具がある程度自由に使える環境にあり,端末を外すことまでを防止することは不可能

➡ GPS等の措置は導入しないこととした。

大井造船作業場における処遇の再開

開放的施設における処遇は,上記のとおりの意義があり,受刑者の改善更生及び円滑な社会復帰を 目指す上で,その果たす役割は大きい

本件逃走事件を契機に明らかとなった問題点への対応策を講じた上で,大井造船作業場における開放的処遇を存続したい

当面の措置

松山刑務所(又は今治拘置支所)を収容場所とし,平日は毎日,大井造船作業場へ護送作業場では,刑務官の配置を見直し,適切な体制を整える

| 就業を再開

その後の措置

逃走防止措置,警備システムの整備が完了

寮の使用を再開

その他開放的施設の今後の在り方

網走刑務所二見ヶ岡農場

GPS装置を始めとした物的警備を適切に運用しつつ,引き続き受刑者の心情把握の徹底を図る自治会制度については,引き続き,受刑者間に上下関係が生じないよう職員が適切に関与

市原刑務所

監視カメラを始めとした物的警備を適切に運用しつつ , 引き続き受刑者の心情把握の徹底を図る 自治会制度については , 引き続き , 受刑者間に上下関係が生じないよう職員が適切に関与

広島刑務所尾道刑務支所有井作業場

規模が小さく、職員の監視が行き届くため、開設以来1件も逃走事件はない 直ちに大井造船作業場と同様の物的警備を導入する必要性は認められないものの、受刑者の 心情把握の徹底を図るとともに、どの程度の物的警備を導入することが適切か今後更に検討